



これは世につたえておきたい  
かたっておきたい  
わが胸の底から真実のおもい  
人生幾山河のめぐりあい  
あの日の風やひかり そして空のひとひら  
哀歓のかがり火に生きた幾年月の路  
「自分史図書館」はその証言館です。

私の稀観本ノート その5

椎窓 猛



筑後の町角にさ  
さやかながらも自  
分史図書館を設立  
したことに多くの  
方々からあたたか  
い励ましの便り、  
著書をいただいで  
いる。

詩人森崎和江さんよりは、去秋死  
去の八女にゆかりも深かった川崎洋  
さんの本、それに民衆史の学者とし  
て高名の色川大吉先生の著書も寄贈  
していただいた。

その中の一冊「自分史・その理念  
と試み」には、個人の追想・追憶を  
主題に書く運動を展開した「ふだん  
記」の創始者橋本義夫の実績がてい  
ねいに紹介されている。色川先生は  
「この人こそ、自分史のパイオニア  
であり、日本の庶民に新しい自己表  
現の道を開いた」と高く評価。

「ふだん記」1号は、1968年、  
昭和43年、ガリ版で発行、のちには  
書き手160人を擁するに至り、  
「ふだん記新書」として個人文集が  
90冊にも達した。

独創的な庶民の文章運動を創始の  
橋本義夫さんは、1985年の夏、  
83歳の生涯を閉じたが、死の直前  
まで若い人々を励まし、方向付け、  
勇気づけたと讃えられている。

ここまで書いた直後、久留米大教  
授保坂恵美子先生から、青春学校で  
学び、自分史を綴った若松小夜子さ  
んの「わが青春～ほほ笑む花のよう  
に」をいただいた。保坂先生はこの  
本には「教師とは何か」「学びとは  
何か」という解答が示されているよ  
うに思われますと、便りに添えられ  
ていた。

告雲見輝生徘徊低精と雲じ見地  
げ海えかき徊い神気がのつて上  
てはなしるしとが付裏はいか  
いいいこてころく側だのら  
る とは のてを っ た は  
の 意 は た  
義 の

雲  
海  
  
川  
崎  
洋



ブックガイド  
心のガーデニング

3月28日、「心のガーデニング」  
というブックガイド誌を刊行の福岡  
市の六百田麗子さんが、新聞記事を  
見たので、自分史図書館にご来訪。

六百田さんは、矢野洋子さん、池  
田典子さんらと、「21世紀を迎え  
て一人ひとりが素敵な生き方を！そ  
の足がかりとして、本が身近にある  
くらしを」と願い、読書にまつわる  
メッセージを届けたいと発刊すでに  
71号。「自分史図書館」もとりあ  
げたいと六百田さん。

このガイドブックには、ノン・フ  
ィクション作家柳田国男氏の絵本紹  
介連載が特色。4月号には、内田麟  
太郎さんの絵本「おじいちゃんの木」  
について語られている。

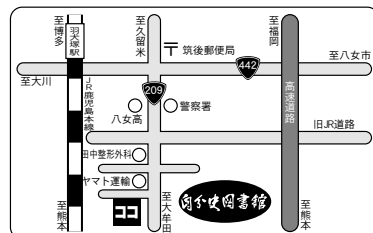


川崎 洋さん、ありがとう

「福岡の八女のことばに、『よう  
ら』という、ユニークな副詞があり  
ます。今も生きている八女特有の言  
い方です。うっかり『アアシモタ、  
ヨウラ忘レッキタ』（あゝしまった、  
うっかり忘れてきた）」

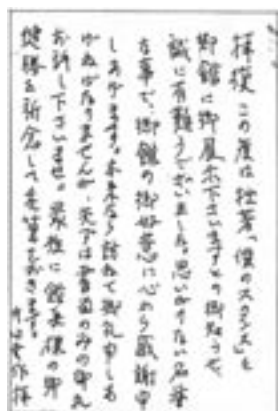
詩の創作にとどまらず、ラジオ・  
ドラマに、ふるさとことば、地域語  
(方言)研究にも情熱をかけた八女  
出身の詩人川崎洋さんは、思いがけ  
なく2004年10月21日亡くなら  
れた。享年74歳。川崎さんの著  
書を、森崎和江さんからたくさん戴  
きました。

開館 午前9時～午後5時 入館無料  
休館 土曜・日曜、祝祭日、年末・年始、その他  
休館することがあります。予めご確認  
下さい。





●「飛形」第10号  
立花町熟年学級では、年度の活動を展望する記録誌「飛形」が発行されている。中村正規会長の言葉に、「一日をよく暮らすことに務めるなら、その日はよく過ぎてゆく」「それなのに翌日に吞まれる人がいる」「今日一日暮らすことの大切さ」を説かれている。「笑顔はみんなの心を照らす」との巻頭言から、立花の熟年学級一カ年の歩みが読みとられる。



●随想山陰つれづれ ただよし  
酒井 董美  
出雲・石見一帯の昔話、民話など口承文芸の収録研究につとめられた鳥取短大教授酒井董美先生の随筆集である。約40年間にわたって、テープレコーダーを持って、山陰各地をまわり、民話、民謡、わらべ歌を取材された経験からの興味深い話でいっぱい。  
お月さまなんぼ  
十三ここのつ  
そりゃまんだ若いぞ  
若あござらぬ  
いんとうござる  
いなさる道で  
尾のない鳥が  
竹の筒くわえて  
かぶりかぶりござった  
伯耆地方のお月様の歌では、尾のない鳥がでてくるそうだ。特異な文化圏として挙げられている。  
(松江市新風書房発行)



●朝鮮のジャンヌダルク  
鄭 棟柱原著 吳 満編訳  
館長様、ここ大阪では桜の見頃となり、明日からは雨が続くとの予報です。昨日は自分史図書館のパンフ案内と館長直筆の恵書に接しました。  
拙著「日韓のかけ橋雨森芳州」を貴図書館に収納していただきましたことを喜んでます。ところで拙著「朝鮮のジャンヌダルク論介」を送付いたします。「論介」に関しては類書では皆無だと思料されますし、日本では一部の歴史学者以外には知られておりません。吳満先生の書簡を紹介し、このようなご恵贈に感謝申し上げます。



林 繁郷さんの「自分史」より



●画帖 緬甸・ビルマ  
西島伊三雄  
童画家、なかでも福岡市地下鉄、各駅のシンボルマーク制作でおなじみの西島伊三雄氏の遺稿画集ともいべき画帖「ビルマ」を、九州文化協会よりご恵贈された。帯に「この画集は私が23歳で、海軍のとき、ビルマのいちばん南にあるメルギーという島で終戦になり、日本へ帰れるか、どうかかわからない収容生活の一年間に現地で画いたものです」「今、こうやって絵を見ていると、戦争とは一体何であったろうかと考えます。」「戦場の明け暮れ過ぎた子供の頃をいつも思い出にしていたのが、童画を描くキッカケになった」といった回想が巻末に記されている。  
西島さんは平成13年秋逝去。享年78歳。貴重な戦場体験画である。

## 受贈図書紹介⑤

河童群像を求めて……………暮安 翠	北九州市	生かされて生きる……………松井 光江	所 沢 市
絆の新井田川……………若宮 由松	八 戸 市	桜色の最終章……………塩田 博	福 間 町
朝鮮のジャンヌダルク論介……………吳 満	大 阪 市	風の廻廊……………渡辺 斌	大野城市
今浦島……………原田 喜示	鹿児島市	いのちをつないで……………賀久 はつ	宗 像 市
どこまでわかるヤマタイ国……………三好 誠	吹 田 市	故郷に帰りたい……………武村 淳	
江南漢詩紀行……………牛島 景資	八 女 市	下駄ばきICU……………小柳 哲也	北九州市
江南三大名楼及其周辺漢詩紀行…牛島 景資	八 女 市	詩集 北極上空……………黒田 達也	福 岡 市
アメリカ説法の旅……………向坊 弘道	北九州市	赤い夕陽に背をむけて……………吉田ふじ子	河内長野市
続・医業の片すみで……………弥永 耕一	久留米市	草原の夕陽 激動の時代を生きて山田 邦夫	茨 木 市
歌集 釣鐘山……………波良杜子於	山 国 町	銃のない兵隊……………富田 寅一	枚 方 市
歌集 夢の触手……………野田 光介	小 郡 市	敵前横断2000キロ……………吉田 辰造	大 阪 長 河 内 郡
豆つぶ先生の放課後……………瓜生 桂子	小 郡 市	飢餓の島メレヨンからの生還……………大浦 庸生	大 阪 市
じいちゃんその足どげんしたと…小峰 秀幸	長 崎 市	戦艦大和からの生還……………武藤 武士	明 石 市
ハンドル人生 世相つれづれ……………蛭田 清	入 間 郡	虐待からの逃避行……………伊集院三枝子	大 阪 市
倒産から奇跡の復活劇……………野間 直彦	大 阪 市	新聞記者が語りつく戦争4 ニューギニア 読売新聞大阪社会部	
喜績が奇跡を呼ぶ……………松田三重子	姫 路 市	三萬マイルの波濤……………江田 敏男	神 戸 市
ピンチ脱出の心理学……………堀部 武司	奈 良 市		